

東日本大震災 ● ● ● 支援活動体験記

広報担当者が見た南三陸町

宮城へ ◆ 東三河災害支援派遣隊第8班の一員として、6月上旬に約1週間、津波で壊滅的な被害を受けた宮城県本吉郡南三陸町へ派遣されました。主な業務は、役場の仮庁舎での業務補助でした。

残酷な境界線 ◆ 被災地への道中、ほとんど地震の影響が感じられなかった風景も、津波が到達した境界線から、「日常」と「非日常」が一変します。がれきの片付けは進んでいるとのことでしたが、まだ多くの建物やつぶれた車、生活用品などが散乱しており、震災前の生活を想像すると心が痛みました。

前を向こうとする被災者 ◆ 学校や保育所が再開し、子どもたちの歓声が戻ってきました。仮設住宅の入居開始など明るい話題もある一方で、将来への不安を拭いきれない被災者たち。亡くなった家族や行方不明の家族への思いに対し、懸命に区切りをつけようとする住民の姿が、目に焼き付いています。



▲黙祷を捧げる人々(6/11 志津川中学校)

職員も被災者 ◆ 家族や同僚が犠牲になった町職員たち。避難所から通勤する人もいて、疲労が感じられました。明るい表情も見られましたが、困難な仕事に取り組む姿からは、やはり少なくない苦悩が。

おだやかな海 ◆ 太平洋に面する志津川湾はおだやかで美しく、三河湾に似た風光明媚な海でした。悲惨な津波とのギャップに、深く考えずにはいられませんでした。(MS)

- 1 昼休み時間変更(1時間遅らす)
- 2 ノーエアコンデー(気温28℃以下)
- 3 空調稼働時間の変更(2時間短縮)
- 4 節電強化アワーの設定
- 5 会議時間のスリム化
- 6 エレベーター1基停止(南庁舎)など

【昼休み時間の変更について】
期間中は、職員の昼休みを午後1時～2時としています(通常…正午～午後1時)。これは、最も電力需要の大きい時間帯を休憩として、冷房やパソコンなど機器の使用を減らし、電力ピークカットに貢献しようというものです。

なお、**窓口業務は通常どおり**行います。市民の皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

▼田原市節電対策本部(エコエネ推進室内) ☎23局7401

2

この夏、工夫を重ねた節電を！ 電力ピークカットの取り組み

ご協力ください！

たはら節電大作戦！電力ピークカット

7月1日～9月30日の月・火・水・13:00～16:00

電力使用量がピークとなる夏季の午後に、週3回、節電に取り組みましょう！

電力ピークカットのために…

- ◆ エアコンの冷房温度を28℃以上に設定する
- ◆ 不要な照明は消灯する
- ◆ 使用していない電気機器のプラグを抜き待機電力を減らす
- ◆ 「緑のカーテン」「よしず」を設置して室内温度を抑える



ご家庭では…

- ◆ 炊飯器・電子レンジ・洗濯機など熱やモーターを使う電気機器の使用を控える
- ◆ 家族で省エネや節電について話し合い実践する

お店や職場では…

- ◆ エレベーターや自動販売機を一部停止する
- ◆ 看板の照明やネオンサインを必要最小限にする



※熱中症を招くような“過度な節電”“無理な節電”は控えましょう。